

# 赤い鯨と白い蛇

## 上映会&せんぼんよしこ監督講演会



せんぼんよしこ

(千葉県立安房高女第35回/  
安房南高校第1回卒業生)

©2005AS プロジェクト



香川京子



浅田美代子



宮地真緒



坂野真理



樹木希林

2007年10月14日(日) 千葉県南総文化ホール大ホール

13:30~第1回上映会/15:30~監督講演会/17:00~第2回上映会

主催：『赤い鯨と白い蛇』上映委員会 (委員長 伊東万里子)

共催：館山市/館山市教育委員会

構成団体：NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

第13回安房地域母親大会実行委員会/かいた婦人の村

後援：南房総市/南房総市教育委員会/鴨川市/鴨川市教育委員会

鋸南町/鋸南町教育委員会/館山市社会福祉協議会

館山市観光協会/館山市商工会議所/館山ユネスコ協会

南総文化ホール友の会/劇団員の火/NPO法人ミュージズ安房

NPO全国生涯学習まちづくり協会/たてやま夕日海岸ホテル

財団法人ちば国際コンベンションビューロー

## ■ ごあいさつ ■

日本が戦争に勝つと信じてやまなかった昭和20年3月、私は東京大空襲で母と弟たちを亡くし、父の故郷・館山に疎開しました。東京の女学校から旧制安房高等女学校に転校し、安房第二高等学校(現在の安房南高校)を卒業するまでの6年間、戦禍に傷ついた私を温かく励ましてくれたのは、館山の自然と諸先生や多くの友人でした。あれから62年たった今もなお、母なる館山・安房の地は私の心の支えです。

そんな私の想いを代弁してくださるかのよう、安房南高校の先輩であるせんぼんよしこさんが、館山を舞台に素晴らしい映画をお創りになりました。「赤い鯨」は軍都だった館山の沖で訓練していた特殊潜航艇を意味し、「白い蛇」は家の守り神を象徴しています。せんぼんさんや私同様、主人公の香川京子さんが少女時代に疎開した館山を訪ねるという設定です。世代の異なる5人の女性とラストシーンの赤ちゃんが織り成す物語は、まるで絵巻のように見えました。まさに、せんぼんさんが日本テレビのディレクター時代に手がけた看板番組「愛の劇場」シリーズの集大成とも言える作品だと思いました。すべての世代に通じるメッセージは、せんぼんさんでなければ描けない、しかも美しい館山だからこそ描けた作品です。せんぼんさんがふるさと館山に熱い想いを贈ってくださった宝ものに思えて、とても感動しました。

女学生時代、戦争について本当のことは知らされていませんでした。安房で本土決戦が想定され軍備強化されていたことや、私たちが「ひめゆり部隊」に匹敵する役割を担わされていたかもしれなかったことなど、私も最近になって知りました。封印されてしまった過去の出来事をきちんと見つめなおし、次世代を担う子どもたちに何を手渡さなければならないか、それを問うのがこの映画の主題です。しかも、由緒ある安房南高校が創立百年を迎え、さらに統廃合によってその名が消えゆく最後の年に誕生した記念碑的作品です。「誠の徳を磨けよ」と建てられた母校です。そこで学んだ卒業生の手によって、このような素晴らしい映画が創られたことを、心から誇りに思います。この映画は、すべての世代の人にぜひ見てほしい映画です。そして、受けた感動の中身をじっくりと考えてみませんか。それが、戦争を起こさない世界を子孫に贈るための大切な一歩であると信じます。

『赤い鯨と白い蛇』上映委員会 委員長 伊東万里子  
(劇団員の火 主宰)

\* \* \*

戦争遺跡は、戦争の記憶をいきいきと語る実物教材です。高校の世界史教員だった私は、かねてより安房地域の戦争遺跡について調査研究を重ね、平和学習を実践しながら、保存と活用を呼びかけてきました。

2004年、館山市では「地域まるごとオープンエアーミュージアム・館山歴史公園都市」構想として、館山海軍航空隊赤山地下壕を整備・一般公開し、翌年には市指定文化財としました。全国的にも先駆的な事例として注目され、年間1万人を超える入壕者を迎えています。館山は沖繩・広島・長崎・松代と並ぶ平和研修の地となり、私たちNPOでは、年間約200団体、述べ5,000人のスタディツアーをガイドしています。

この館山の戦争遺跡を舞台に、せんぼん監督によって素晴らしい映画が誕生したことは、地域の誇りといえます。映画製作に際して時代考証やロケ地選定に協力してきた私は、この映画を末永く普及し、子どもたちに平和を語り継いでいきたいと、せんぼん監督に約束してきました。その第一歩として「第13回安房地域母親大会実行委員会」と「かにた婦人の村」の皆さんとともに上映委員会を結成し、館山市と館山市教育委員会の共催を得て、今日の日を迎えることができました。上映のためにご尽力くださった多くの方々に、この場をお借りして御礼を申し上げます。

ところで、映画のなかで香川京子さんが青年将校の形見を発見する地下壕に龍のレリーフが登場します。これは撮影用セットではなく実在するもので、壕内には「戦闘指揮所」「作戦室」という額もあり、全国的にみてもたいへん貴重な戦争遺跡といえます。しかし現在、民間の福祉施設内にあるため一般公開はしておらず、平和研修の団体のみ特別に見学許可を受け案内しています。

私たちは映画の普及を通じて全国の皆さんから基金を募り、龍や額のレプリカを制作するとともに、それらを展示する「平和ミュージアム」の開設を構想しています。安房地域には戦争遺跡ばかりでなく、海を通じて広く世界とつながり、友好を培った先人たちの痕跡も数多くあります。ピース・ツーリズムとして世界中から人びとを招き、「平和・交流・共生」の精神を活かした地域づくりと教育に貢献していきたいと願っています。

上映委員会 事務局長 愛沢伸雄  
(NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム 理事長)

## ● 『赤い鯨と白い蛇』を観て ●

異様な題名に、初めはあまり期待をしていませんでしたが、観るたびに新しい気づきと感動がわいてきました。内房線特急の車内に始まり、南欧風の館山駅西口から鏡ヶ浦、洲崎灯台など、見慣れた風景が次々と広がります。館山の海、浜、山、樹々にそよぐ風、葉のささやき、私の散歩道にある波左間の六地藏。東京から越してきた私にとってもすべてが身近で、親しみ深い場面が続きます。この映画は、そんな館山を舞台に年代も環境も違う5人の女性たちが出会い、それぞれ苦悩を乗り越えて明日に希望をつなぐ3日間の物語です。

敗戦の2日前に命を落とした特殊潜航艇の青年将校は、「自分の心に素直な生き方を」「私を忘れないで欲しい」という言葉を残しました。香川京子扮する保江は彼との約束を守るため、認知症で薄れゆく記憶を懸命にたどりながら、館山の掩体壕や地下壕などの戦争遺跡を歩き回り、鏡ヶ浦の夕日に赤く染まった潜水艦と、白い軍服に身を包んだ青年将校の回想シーンが重なります。これは、亡くなった青年将校だけでなく、戦争で犠牲を強いられたすべての者への鎮魂の場面として深く心に残りました。

それまで静かに描かれていたスクリーンが一転して、宮地真緒演ずる若い娘が赤子を胸に抱き、「やわたんまち(八幡祭礼)」の神輿担ぎを眺めるシーンに変わります。赤子の胸に、青年将校の七つボタンが光っていたのが印象的で、未来への無限の希望を感じる場面です。

かつて軍都であった館山の地は、人も自然も自由な呼吸すらできない時代であったかもしれません。戦争が終わり、苦しみから解放され、生き生きと輝くばかりの美しさと可能性をよみがえらせました。随所を飾る館山の美しい自然を背景にして、いのちや平和の尊さ、その可能性と希望が描き出されています。それは自然ばかりではなく、せんぼん監督の母校・安房南高校の威風堂々とした木造校舎をはじめ、この地に生きてきた人びとの営みもつエネルギーであるといえるでしょう。苦悩をかかえて現代を生きる人びとの心を癒し、生きる力を育ててくれる珠玉の作品です。館山市民、いや千葉県民の一人として、せんぼん監督はじめ関係者の皆様に、素晴らしい作品を有難う、と心から言いたいと思います。

「安房・平和のための美術展」実行委員会 事務局長 橋本芳久

私は、教育を志す大学生です。NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラムの平和研修に参加した縁で、この1年間に4回館山を訪問し、まちづくり事業に参加しています。世代も、住んでいる場所も違う方々と交流し、思いを共有できたことは、私たち学生にとってこの上ない喜びでした。

館山の戦争遺跡めぐりは、戦争も貧困も経験したことのない私にとって、はじめて戦争と向き合う機会となりました。この美しい南房総が「第二の沖縄戦」の場になっていたかもしれないということや、終戦直後には本土で唯一「4日間」の直接軍政が敷かれたということもはじめて知り、大きな衝撃を受けました。

そんな館山の戦跡を舞台に撮影された映画『赤い鯨と白い蛇』は、戦地に赴く男性を見送ることしかできなかった“女性”に焦点を当て、“女性”の監督が描いた作品です。もちろん戦争だけがテーマとはいえず、女性としての生き方に関わってくる描写がたくさんあり、男性の私としては、想像の域を脱しないというか、すんなり理解できないところもありました。けれどもこの映画は、私にまったく新しい価値観を与えてくれたのです。

「私があの人のことを忘れては、彼は二度死ぬことになる」…戦争で残された女性が、亡くなった人を思い続けることしかできないというのは、あまりにも悲しすぎます。私は、愛する人を守るために戦場へ行くのではなく、たとえどんなに非難されたとしても、愛する人とともに生きる手段を考えたいと望んでいます。たくさんの人間の人生を大きく巻き込み、翻弄してしまう戦争という時代の中で、自分に正直に生きるということは難しかったことと思います。現代にも通ずることですが、国家や世間が作り出した一定の価値基準の中でしか生きられないのではなく、多様な価値観や生き方を尊重した社会を旨とした教育の重要性を改めて感じました。

この映画は、館山が舞台であることに意義があると思います。それは私が、実際に館山の戦跡を見聞していたからこそ、この映画がリアルなものとして実感できたところも否めません。この映画は、館山の戦跡を活用した平和研修との相乗効果によって、さらに“予習教材”であり“復習教材”にもなることでしょう。

人と人とのつながりが希薄になったと言われる昨今、もっとも重要なことは、性別も、生きた時代も異なる世代の、多様な価値をもった人びとが集う“交流”の場なのかもしれません。映画では、5人の女性たちが導かれるようにつけて暮らした古民家に集い、語り合い、思いを共有する中から、それぞれが次の一歩を踏み出しました。人々が支えあって生きていける社会を目指すうえで、この映画にはたくさんのヒントがあるように思えます。私はこの映画からそんな希望をもらいました。

千葉大学教育学部 川上 和宏



## 「私が忘れたら、あの人は二度死ぬことになるのよね…」

老境を迎えた保江は、孫娘とともに千倉の息子夫婦の家に向かう途中、戦時中に疎開していた館山の古民家を訪れた。世代も生き方も異なる5人の女性たちは、お互いの人生を交差させながら、胸の中の本当の想いを、今一度見つめ直していく。「私のことを忘れないでほしい」。青年士官と交わした少女時代の約束に想いを馳せる保江。今や日本の人口の4分の3が戦争を知らない世代であり、その記憶も徐々に薄れつつある。館山の戦争遺跡を舞台に描かれたこの想いは世代から世代へと受け継がれ、新しい時代を切り拓いていくことだろう。

### せんぼんよしこ監督が描いたふるさと館山。

1928年旧満州・大連生まれ。小学校3年で、満鉄の建築技師だった父の病気療養のため、千葉県館山に転居。安房高女第35回、安房南高校第1回卒業。終戦後、父が亡くなり、母・姉とともに上京、早稲田大学文学部演劇科進学。53年、日本テレビ一期生として入社、ドラマ演出の草分け的存在として活躍。シリーズ「愛の劇場」では、4年間連続200回演出で黄金時代を築き上げ、日本放送作家協会第1回演出者賞、芸術祭奨励賞を受賞。「ああ!この愛なくば」で芸術祭大賞、テレビ大賞優秀個人賞を受賞。日本テレビ退職後もフリーとして数々の秀作ドラマを発表。「今こそ伝えたい」という熱い想いから、本作で映画デビュー。

出演：香川京子 浅田美代子 宮地真緒 坂野真理 樹木希林  
 製作総指揮：奥山和由 脚本：富川元文 監督：せんぼんよしこ  
 製作：クリーク・アンド・リバー社 東北新社  
 2005年/日本/102分/ヴィスタサイズ/DTS-SR  
 ©2005ASプロジェクト <http://www.asproject.jp>

#### 【受賞歴等】

第30回モントリオール国際映画祭出品  
 第19回東京国際女性映画祭オープニング作品  
 2006年度シネマ夢倶楽部・ベストシネマ賞第3位  
 第26回藤本賞・新人賞：せんぼんよしこ  
 第16回日本映画批評家大賞  
 特別女性監督賞：せんぼんよしこ  
 サファイア大賞：香川京子/助演女優賞：樹木希林



洲崎灯台



部古橋



ウミホテル(栄の漁漁港)



六地藏(波左間)



船形海岸



やわたんまら(八幡祭り)



平砂浦海岸



館山の戦争遺跡群



DVD 定価3,990円(税込)  
 小説 定価1,575円(税込)



古民家(茨城県阿見町)/離れ(館山)



館山駅



館山の戦争遺跡群

### シネマツーリズム(館山ロケ地めぐり)&上映

●企画・取組窓口●

NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム  
 TEL&FAX:0470-24-0224 [npo@internet-ex.com](mailto:npo@internet-ex.com)  
 〒294-0033 千葉県館山市館山95 小高嘉郎記念館

### ●館山の戦争遺跡をめぐる平和・人権スタディツアーのご案内●

軍都館山には、「第2の沖繩戦」に備えた様々な特攻基地がつくられ、終戦直後には本土で唯一の「直接軍政」が敷かれるなど、知られざる出来事があります。『赤い鯨と白い蛇』は、龍のレリーフがある地下壕でも撮影されましたが、今なお「戦闘指揮所」「作戦室」と彫られた顔が残っており、その丘上には「唯従軍慰安婦」石碑が建立されています。どちらも婦人保護施設内のため一般公開されていませんが、平和研修のみ座学付きでNPOガイドがご案内します。(法人名：安房文化遺産フォーラムと改称)

◆対象：10名以上の団体◆ガイド料：参加者1人あたり1,500円(戦跡ガイドブックと映像・座学を含む)◆

